

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370800229		
法人名	医療法人社団敬和会		
事業所名	グループホームとおの		
所在地	遠野市松崎町白岩13-30-8		
自己評価作成日	平成25年10月30日	評価結果市町村受理日	平成26年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/1/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&Jl_gvosvoQd=0370800229-00&PrEfQd=03&VerSiOnQd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成25年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲には保育園やサッカー場もあり、ホーム前方は畑が見え、ゆったりとした環境にある。又、地域の行事に出かけたり、散歩に出たりと、中ばかりにいないで、外出するようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

とおの福祉の里の近隣事業所であるので、介護関係の情報収集、指導助言が、何時でも出来る位置にある。事業所の周りは、故郷、田舎の風景が見られ、利用者は育った環境と似通った毎日を過ごすことで、落ち着いている。以前は、東京の利用者等、遠地が多かったが、最近は市内からの利用者も増え、家族の来訪の回数も増えた。自治会に加入してから、地域との交流の機会も多くなり、利用者、部外者との接触でいい刺激を受けられるようになった。訪問時も高校生が初めて花を売りに来ていたり、読み聞かせのボランティアが来ていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の常に見える位置にかかげ、実践につなげられるように心がけている。又、日常においても、行事の計画にするにしても検討する際は念頭においている。	理念は、事業所内の見やすいところに掲示している。皆で楽しめるよう、居心地良く安心して過ごせるように、日常の業務や行事等の際には、念頭に置いて行動している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し会費納入している。地域行事への参加をしたり、地域の方々との共同行事として、ホームにて芋のこ会開催している。	自治会に加入し、小正月、敬老会等の地域行事へ参加し、地域との交流の機会も増えた。保育園とも交流し、行事に参加したり、園児の訪問を受けたりし、利用者が笑顔になる。地域の方々の共同行事として、ホームにて「芋の子会」を開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	時に取り組みしておらず、生かしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通して地域の方々との芋のこ会の進め方について話しあっている。会議の中で、ホームの様子をお伝えし理解していただくようにしている。	職員の途中退職があり、その対応に追われ、推進会議の開催も出来なかった時期がある。また、家族の参加呼びかけも今後の課題となっている。11月、12月、1月に開催予定としている。	運営推進会議を、定期的に行うことを望みたい。また、会議への利用者や家族の参加を勧めて頂きつつ、また地域の関係機関(駐在所、消防署等)の参加も呼び掛けるなどの取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常的ではないが、何か確認したいこと等あれば、近いということもあり、直接行き確認ができる。又、担当課への出入りも厳しい制限ない為、行きやすい。	市介護保険の窓口(福祉の里)が近く、直接出向いて指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関にはセンサーで音が鳴るチャイムを設置。施錠は夜間、職員が一人になる時間帯に安全の為にしている。行動の抑制、本人の動きを妨げないケアを行っている。今年度の研修計画でも身体高速度についての勉強会を実施していく予定。	玄関にはセンサーで音が鳴るチャイムを設置している。夜間は施錠している。言葉かけには気を付け、行動の抑制、本人の動きを妨げないケアを心がけている。今年度の研修計画に、身体拘束をテーマにしている。外部の研修会に参加していない。	財団等が開催する、外部研修に積極的に参加されたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修計画の中に盛り込んでおり、これから実施予定。職員は、虐待という意味を理解し、そのような行為はしていない。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームとおの

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年、市内グループホーム合同研修会で市職員を講師に研修した。入所者様1名、日常生活自立支援事業を利用している方おり、重ね合わせてとても勉強になった。周囲に他に活用するような方等なく、今後、関わる中で活用できる場面あれば、活用していきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前の、重要事項説明の段階から、分からない点、不安なことは聞いていただき、回答している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にはお話をゆっくり聞くようにしている。又、私たちに言いにくいことがあったら、他のところでもいいのでと説明もしている。今までに運営に関することでのご意見等はなかった	最近では遠野市内の利用者が増え、家族の面会も多くなったので、意見・要望も聞けるようになった。体調を心配する家族からは、無農薬のりんご、飲料水を持ち込み、摂食させてくれとの要望があり、毎日実施している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職員会議の場でパート職員も含み、意見出してもらっている。その中で取り入れられることは直ぐに活用している。	毎月、パートの職員も参加し、職員会議を開催している。会議では、主に利用者のケアに関する意見交換が多い。日常的には、気付きをタブレットに記入、全員が確認している。毎日の申し送りは紙に記入掲示板に貼り、確認している。業務の改善事項や決まり事を守る等、些細なこと(出した物は決められた場所に返す。利用者の部屋に入る時は声掛けして入る等。)も取り入れ、実行している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部は私たちの意見を聞いてくれて検討してくれている。そのことは、やる気にも繋がっていると思われる。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部は、研修案内をパソコンで皆が閲覧できるようにしてくれ、研修の機会を積極的にしてくれている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回、市内グループホーム合同研修会開催し、又、交流会も実施している。そのことで、お互いに行き来しやすくなったり、相談しやすい関係づくりになっている。又、法人内の小規模施設との会議もあり、よい話あいの機会となっている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前に実際の部屋を見ていただき、何が必要か、どこがトイレなのか確認していただき、安心感を持っていただけるようにしている。その際、不安なこと等、聞き、対応できることはするようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様は離れることでの体調面の心配や様々あり、そのつどお話を聞くようにしている。窓口は管理者や居室担当が多いが、同じ人が継続して聞くことで、ご家族様も話しやすい関係が築けていると感じる。それから、排便の有無を気にされているご家族様に、安心していただく為に、排便の様子とその日の様子をメールでお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時に必要としていることが他のサービスでしかかなわない時には、検討、導入していきたいと考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に役割を持っていただき食事の準備、掃除、洗濯等、手伝っていただきとても助かっている。そして、お礼を伝え気持ちよくしていただけるように関わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診時は職員が付き添い、車を出していただき一緒に行っている。そしてご家族と一緒に外出の機会もあり、職員も同行お手伝いさせていただいている。トイレ誘導もしてくれているご家族様もあり、衣替えもご家族様がしてくれたり、共に関わっていけていると感じる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院にいつもはご家族様と行っているが、行けない時は、ホームのほうで一緒に行き、関係性が途切れないようにしている	月1回、理容の有料ボランティア、読み聞かせ、レクリエーションボランティアが来ている。帰宅願望が強い時には、車で近くまで行き、留守を確認すると納得する。行きたい時に行けるよう心がけている。「餡っこ買いたい」「ソフト食べたい」の気持ちを大事にし、車で買いに行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係や相性を職員は把握出来ている。又レクリエーションを通して全員が交流を持つ機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	夏に入院、退所された利用者様のお見舞いに行ったり、ご家族様の相談にのっている。退院し、別な施設に入っても、ご家族様にお会いした時、どうですか？とお話し聞いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で本人の希望をくみ取り、記録の気付きにあげて共有している。	個人記録は、医療法人社団敬和会介護記録システムを使用している。日常の関わりの中で把握した事柄は、システムの気づきノートに入力し、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される段階で聞き取りしてきており、個々の記録に挟んでおきいつでも把握できるようになっている。又、会話することにより生活層を更に知ろうと心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の過ごし方、リズム、心身の状態を把握出来ており、その方にあった過ごし方となるように関わるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員からのそれぞれの意見を出し合い、そしてご家族様からお話を聞くことで、更にその方にごう接していったら良いか検討、作成している。	職員は2名ずつ利用者を担当している。カンファレンスでは、パートの職員も参加し、意見を出し合い、家族からの情報等も合わせて検討し、介護計画を作成している。管理者が、プラン作成担当している。家族からは面会時に、意見・要望を聴取するように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録システムになってから気付き欄があり、更に情報共有しやすくなった。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今、現在は何か特別なことはしていない。今後、ニーズがあるときは対応を検討、実施してみたい。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームとおの

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館に出かけて読みたい本を借りたり、紙芝居を借りたりしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の希望で病院を変更し、職員も同行し手伝わせていただいている。それぞれかかりつけ医があり、医療機関との関係性を大事にしながら相談している。	家族の都合が悪いときは、通院の支援をしている。受診時は、ホームでの生活状況を伝えている。それぞれのかかりつけ医とは、円滑な関係が築けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護職はおらず、又、医療連携体制もできていない。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した方の意識の回復が遅く、少しでも刺激をあげたいという思いで、毎日、出勤の職員で担当を決めてお見舞いに行っていた。回復していただき、早期に退院していただけるように私たちは関わっている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期についての話あいを個々のご家族様と出来ていない。今後の大きな課題となっている。	職員に看護師の配置はなく、看取り指針もないため、特に家族との話し合いはして来なかったが、昨年お一人、看取りを経験したこと、現在、時々意識障害を起こす利用者に訪問看護が入ったことから、重度化、終末期に関する検討を予定している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に1度、救命講習受講している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は地域の方々にも参加していただき、実際、夜の時間帯に夜間想定訓練している。その際、色々なご意見いただき、協力体制の見直しになっている。	今年度は、夜間に避難訓練を実施した。自治会と、参加者の役割等、事前の打ち合わせを行い、区長の声掛けで地域の方20人ほど参加協力があった。その際、意見をいただき、協力体制の見直しをしている。また、区長と民生委員は、ホームの災害対応通報システムに電話登録して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人一人が言葉かけや話し方に気をつけ、その方の気分やその場にあった対応をするように心がけている。そして、レクリエーション等の大きな声を出して良い時以外のプライバシーを損傷するような不必要な大きな声が出さないようにしている。	「親しみ」と「馴れ馴れしさ」は異なるということ等、職員一人ひとりが言葉掛けや、話し方に気を付けている。利用者の、その時に合った対応をするように心がけている。また、プライバシーを損ねるような大きな声を出すことの無いよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分自身の必要なもの(例えばスリッパ)と一緒に買い物に行き、選んでいただいている。職員側から押し付けるような感じではなく、ご本人に確認し決めていただくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何時頃に入浴したいか聞いてから、お風呂のお誘いしたりしている。横になりたい時は休んでいただく。それで食事がずれたりすることもあるが、其の方のペースやリズムを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際は一緒に服を選んでいる。又、本人をよく知っているご家族様からどのような着方を好むのか教えていただいている。パーマをかけている方もおり、髪をセットした後は手鏡チェックしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今まで食事の準備、片付けを率先して手伝ってくれた方が退所され、他の方々も「この方はコレが出来るのでは」と見直し、実施する機会が持てた。	食材の準備や片付けを、職員と一緒に実施している。献立は、隣接の老人保健施設の栄養士に助言を貰っている。テレビで、カボチャを食べているのを見て、利用者が「カボチャ、食べたい」と話し、メニューに取り入れたりした。料理の本と一緒に見ながら希望を聞いたりしている。食前には、口腔ケアと肺炎予防を組み合わせた体操をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取少ない方には、お粥やお茶ゼリーの提供。又、好む飲み物の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員が関わることに負担に思う方もおり、個々にあった口腔ケアをしている。其の中でも1日の中で1回は必ず介助に入るようには決めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームとおの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は出来るだけトイレでの排泄を促している。個々の排泄パターンを確認し、今まで、リハビリパンツを常時使用していた方は布パンツに変更したり、昼間は尿とりパットも使用せず過ごせれるようになった方もいる。	排泄チェック表で、個々の排泄パターンを確認し、トイレでの排泄を促している。自立に向けて支援し、リハビリパンツを常時使用していた方は布パンツに変更したり、昼間は、尿とりパットも使用せず過ごすことが出来るようになった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に乳製品を取り入れたり、日中の水分補給の中にも乳製品を取り入れている、牛乳を飲まないで便秘になる方もおり、毎朝、起きてから朝食までの間に、カフェオレにして飲んでる方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴お誘いし断られたら無理強いしない。入浴時間の希望も聞いたりし、何より本人が入りたいと思って気持ちよく入っていただけるようにしている。	通所ディサービスに、2~3名来ており、利用者と交流している。通所の方は午前中、入居の方は午後とし、週3回は入浴するように配慮している。断られても無理強いせず、何回か誘い、希望の時間に合わせ、夜間対応することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中に元気がない方は朝食後休んでいただいたり、お昼寝する方がいたり個々に休んでいる時間帯は違っている。又、骨折した方が痛みなく休んでいただけるように足枕使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の説明書をファイルしている。又、内服されている薬について、写真を撮って分かりやすくしている。新しい薬については、注意して観察すべき点を申し送りし体調観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	農業されていた方には畑仕事をしていただいている。そして、いつも床のごみを捨ててくれる方にはその時にほうきとちりとり渡していつも綺麗にしている。又、コーヒーが好きな方には毎日コーヒーを飲んでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の利用者様のご家族様との食事や作品展を鑑賞したりと普段出来ないことを希望によって行っている。又、地域の方々やバスハイクに出かけたりしている。	家族から、絵画鑑賞に利用者連れて行きたいが、介護に不安なので同行して欲しいと依頼され、付き添うこともある。また、地域の方々やバスハイクに出かけたりしている。老人保健施設のリフト車を借用し、紅葉狩りや産直にドライブしている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームとおの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望にて財布(お金)を持っている方がいる。出かけた時に使ったり、自分も行きたいところがあった時に持ち、買い物している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りについての支援は出来ていない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事にあわせて装飾すると、利用者様も大変、喜んでくれている。ごちゃごちゃならぬようにし、居心地よい環境になるように配慮している。	季節や行事にあわせて飾り付けしており、利用者も大変喜んでくれている。評価調査時は、ハロウインの壁飾りが飾られていた。また、インフルエンザ予防として、加湿器を2台設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂内のソファがある場所は食事の席を背にしているため、初めて利用する方や独り落ち着きたい時に安心感がある。又、気の合う利用者様同士で座ってもらえる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していた家具や、気に入っていた絵を持ってこられている。又、耳が遠く目も見えづらい方は共用スペースのテレビは見えないし、聞こえないということで、自宅で見いていたのと同じように部屋に設置し、大きな音でヘッドホンしてゆっくりとみている。	ベッド、小ダンス、床頭台、和風電気スタンド、洗面台が備え付けてある。自分の部屋を認識しやすいようにとの思いで、居室の入口灯のデザインが各部屋毎に異なっている。耳が遠く、目も見えづらい方は、テレビを持ち込み、大きな音でヘッドホンをして、ゆっくりと観ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かるようにトイレの戸や側に案内表示している。目が見えづらい方が入所する部屋からトイレまでの道のりにある途中に明かりをつけるようにしたり、物を片付けたりし、危険なく自分で移動できるようにしている。		